

# 2025年度 事業計画書

特定非営利活動法人School Voice Project

NPO法人School Voice Project (以下SVP) は、学校で働く教職員のエンパワメント (=変えていける実感の醸成) が、子どもたちのエンパワメントにつながるという信念のもと、山積する学校現場の課題を教職員の声の力で変えていくプラットフォームとして活動している。

Vison (私たちが目指すもの) : 子どもも大人もしあわせな学校

Mission (私たちの使命・役割) : 教職員のエンパワメント

## 1 今年度のハイライト・重点課題

### ●ハイライト

- 学校や教室に変化を生み出すコミュニティ型プロジェクト「エンジン」スタート。
- 「不登校の現実から学校教育のこれからを考える対話会」シリーズを全国4箇所で対面実施。
- 学習指導要領改訂論議を現場にひらくPJを始動し、「具体的な成果」を目指す。
- 「すべての子どもを包摂する学校づくり」をテーマに事例や知見、ビジョン等を広く関係者と共有するイベントを冬に東京で実施する。

### ●重点課題

- 限られた資源 (ヒト・モノ・カネ) を有効に活用し、より効果的に社会的インパクトを発揮できる体制の整備
  - ボランティア募集やプロボノ活用を中心にした実働スタッフの増員
  - 事業・PJ間の連携や実務の効率化、相乗効果発揮を狙った戦略的事業運営
- 政策提言・ロビイングにおける「具体的な成果」を獲得
- 広報・発信力の強化による団体の存在感の向上と支援者・共感者の拡大

## 2 事業・プロジェクトについて

定款における 事業名	事業・プロジェクトの内容 ( ◎常設 / ●ほぼ常設 / ○単年度 )	担当者
教職員WEBアンケートサイト・WEBメディア運営事業	◎教職員を対象としたWEBアンケートサイト「 <a href="#">フキダシ</a> 」 インターネット上で現職教職員向けのアンケートを実施し、現職教職員のさまざまなトピックに対する意見や思いを収集する。 →常時1-2本のアンケートを実施。うち、政策提言に直結するもの：年間7本、その他年間12本程度を予定。	齋藤 小林
	◎WEBメディア「 <a href="#">メガホン</a> 」 フキダシでとったアンケートを公開すると共に独自コンテンツとして学校現場を元気にする情報を発信するWEBメディアを運営する。 →「教職員チャレンジ図鑑」：月1本更新、「解説記事」：月1本更新・隔月で新規記事の公開、「キャンペーンページ」の充実等を行う。	齋藤 建石
政策提言・ロビイング事業	◎ネットワーク構築とノウハウの蓄積（基盤整備） フキダシ等を活用して集めた学校現場の声をもとに政策提言・ロビイングを実施していくにあたり、地方議員・国会議員・文科省・教育委員会・研究者等とのネットワークや関係性を構築する。また効果的に提言活動を実施するためのノウハウを蓄積する。	小林 武田
	●すべての子どもを包摂する学校づくり推進ネットワーク（インクルPJ） マイノリティの子どもを含むすべての子を包摂する学校教育の実現を目指し、その法的基盤となる「 <u>学校DE&amp;I法（仮）</u> 」の制定、その他必要な政策を推進する。 →ネットワーク立ち上げと賛同団体・個人の募集、記者会見やイベントの実施、政治家や教育行政関係者等に働きかけ、社会発信等を行う。	尾花 小谷 武田
	○学習指導要領改訂論議を現場にひらくPJ 現場教員が学習指導要領の改訂について理解を深め、意見形成・意見交流をし、文科省を含め広く社会に向けて発信できる場と機会をつくる。 →オンライン配信・おしゃべり会、 <u>文科省関係者への提言等</u> を行う。	武田 小林
教職員コミュニティ構築事業	◎オンラインコミュニティ「 <a href="#">エンタク</a> 」 教職員や学校を応援する市民を参加対象としたオンラインコミュニティ「エンタク」を運営し、「エンタク」内での交流や学び合いを通じて教職員のエンパワメントを目指す。 →イベント実施やスレッド書き込み等を通じたコミュニティを盛り上げ・活性化、メンバー増加を通じた仲間の輪の拡大、団体の活動基盤の安定化等を行う。	上條 塚本 藤 山下
	◎学校現場に変化を生み出すコミュニティ型プロジェクト「エンジン」 全国各地の教職員がオンラインで集い、それぞれの職場で”マイプロジェクト”に取り組む期間集中型のプロジェクトを実施する。試行錯誤を励ます場づくりを通して、学校現場の具体的な変化を目指す。 →基礎講座の企画、メンバー間のチームビルディングや「エンタク」内で	大野 工藤 武田 横山

	<p>の非同期コミュニケーション等のファシリテート、メンバーのマイプロジェクトへの伴走サポート等を行う。</p>	
	<p>◎対話合宿(8月3日～4日) 「エンタク」メンバーとその知人等を対象として、同じビジョン・方向性を共有する仲間とのつながりを広げ、安心できる信頼関係を育むことを目指したエンパワメントの場づくりを行う。 →1泊2日のプログラムの企画、参加者募集、その他ロジ等を行う。</p>	加藤 中谷 藤
	<p>○みんなのルールメイキング・関東地域パートナー（業務委託2年目） 昨年度に引き続き、認定NPO法人カタリバからの業務委託を受け、関東地域において、ルールメイキングの実践を学校に広げるとともに、ルールメイキング実践者（生徒・教員）の熱を高め、主体性を引き出すサポートを行う。 →オンラインや対面での教員交流会や実践相談会、生徒同士の交流機会の創出、地域大会の開催等を行う</p>	楠本 武田 逸見
ワーク ショップ・ イベント事業	<p>○不登校の現実から学校教育のこれから考える対話会（対面） 児童生徒当事者や、保護者、学生、支援団体等、学校教育に関わるような関係者と現場の教職員が集い、学校教育をテーマに対話するイベントを全国各地で実施する。 →プログラムの企画、参加者募集、その他ロジ等を行う。北海道、東北、関東、関西で実施予定。</p>	未定
	<p>○学校教育をめぐる公開対話会（オンライン） ゲストと現職教職員が、学校教育をめぐるさまざまなテーマについて対話するイベントを実施することで、学校教育にまつわる多様な問題について提起するとともに、団体や「エンタク」等の認知度の向上を図る。 →プログラムの企画、参加者募集、その他ロジ等を行う。概ね月1回程度開催予定（年間10回程度）。</p>	事務局
	<p>●冬の対面イベント（11月23日） インクルPJ、「エンジン」、不登校対話会で得られた、「すべての子どもを包摂する学校づくり」に資する視点や知見、コツやポイント、事例やビジョン等を広く関係者と共有するイベントを東京で実施する。 →プログラムの企画、参加者募集、その他ロジ等を行う。</p>	未定
研修事業	実施予定なし	—

### 3 組織体制について

#### ●マネジメント会議の設置

限られた資源（ヒト・モノ・カネ）の中で、より効果的に社会的インパクトを発揮するとともに、持続可能かつ社会的責任に耐えうる組織にしていくために、理事会の下に事務局とは別に、事業全体・組織全体を把握して、必要な議論をし、改善の手立てを提案していく「マネジメント会議」（月1回以上・必要に応じて適宜開催）を設置する。構成メンバーは理事もしくは職員とし、理事会・事務局・各チーム・会議等に対し、提案やフィードバックを行う（決定権は持たない）。

#### マネジメント会議について：

- 事業成果＝社会的インパクトを最大化するための機能（攻め・戦略）
  - ビジョン・ミッションに基づき、より効果的に事業や組織を運営するための施策を検討
    - 事業 / PJの連関や相乗効果を高める施策
    - 限られたリソースを有効に効率的に活用するための施策 等
  - 成果指標の把握管理と改善策の検討・理事会やチーム等へのフィードバック
- 組織や事業運営全体を健全かつ民主的でインクルーシブに保つための機能（守り・ケア）
  - 法令違反や人権侵害、ハラスメント等に関する予防・課題発見・対応
  - 組織内の関係性のケアやメンテナンス、コンフリクトへの対応
  - 社会的・対外的な見え方にも目配りしたリスクマネジメント

#### ●事業・プロジェクトチームの再編成と機能別会議の設置

昨年度までの事業別のチーム編成（フキダシ・政策提言、メガホン、エンタク、企画イベント）では、担当の範囲や責任の範疇が不明瞭な部分があったり、広報やロビイングの機能が十分に持ちきれない部分があった。そのため、事業・プロジェクトチームをより細かく再編成し、その中にそれぞれ、特に「広報」「イベント企画」「ロビイング」を担うメンバーを置くこととする。さらに年間3回＝学期に1回程度、それらのメンバーが集まり、事業やプロジェクトを横断した機能別会議（広報会議・イベント企画運営会議・ロビイング会議）を実施。そこでスキルやナレッジを共有・蓄積することとする。そこで共有されたスキルやナレッジは、各事業・プロジェクトチームの運営に反映・活用される。

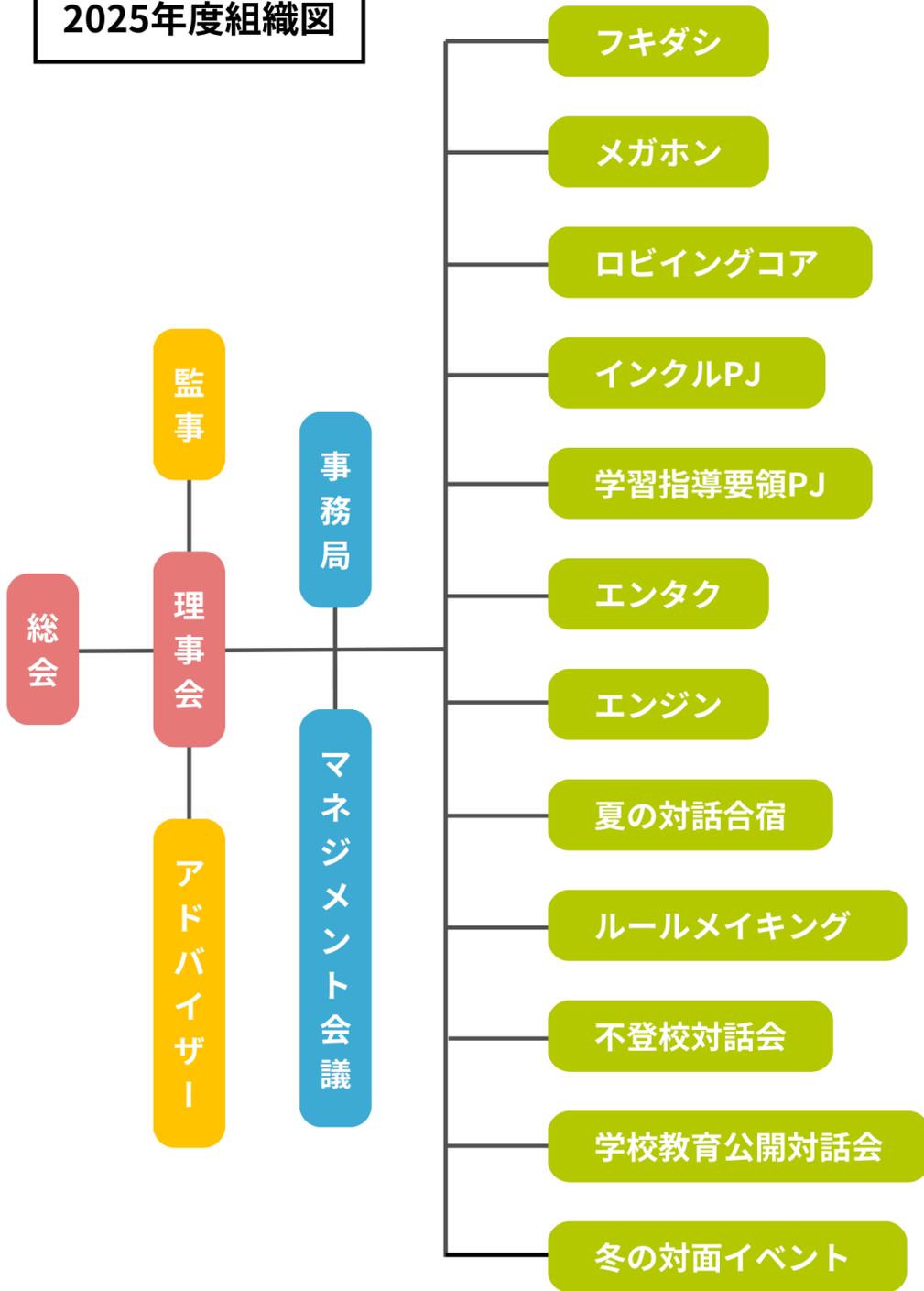
#### 機能別会議について：

- 日常的には各事業やPJチームで実務を担当している人が集う会議。
- データフォルダにノウハウやフォーマットや再利用可能なテンプレート、新たに得たスキルやコツなど等を蓄積していく。実務に関する相互の相談・相互アドバイスも行う。
- それぞれの機能別会議には会議招集＋ナレッジ蓄積の責任者としてリーダーを置く。
- ボランティアスタッフやプロボノを積極的に登用したい。  
※移行にあたって：「広報」に関してはプロボノを入れて基盤整備を行う。「イベント企画運営」に関しては昨年度までのイベントチームが、「ロビイング」についてはロビイングチームが、これまでのナレッジやスキルをまとめることとする。

#### ●ボランティアやプロボノの活用

現状では、事務局2名は非常勤であり、また実働の多くを理事が担っているが、学校現場で働いている現職教職員も多く、稼働量には限界がある。そこで、今年度は重点課題の1つとしてボランティアやプロボノ（仕事で培った専門知識や経験を活かして、社会貢献するボランティア）を積極的に活用した実働スタッフを増員していく。マネジメントやコーディネートにはコストがかかるが、ボランティアはエンタクのメンバーを中心に呼びかけをすること、プロボノはサービスグラント等・一定の質が担保されているプラットフォームを活用することにより、負担軽減を図ることとする。

## 2025年度組織図



※チーム横断で「広報」「イベント企画運営」「ロビイング」の3つの機能別会議を設置する